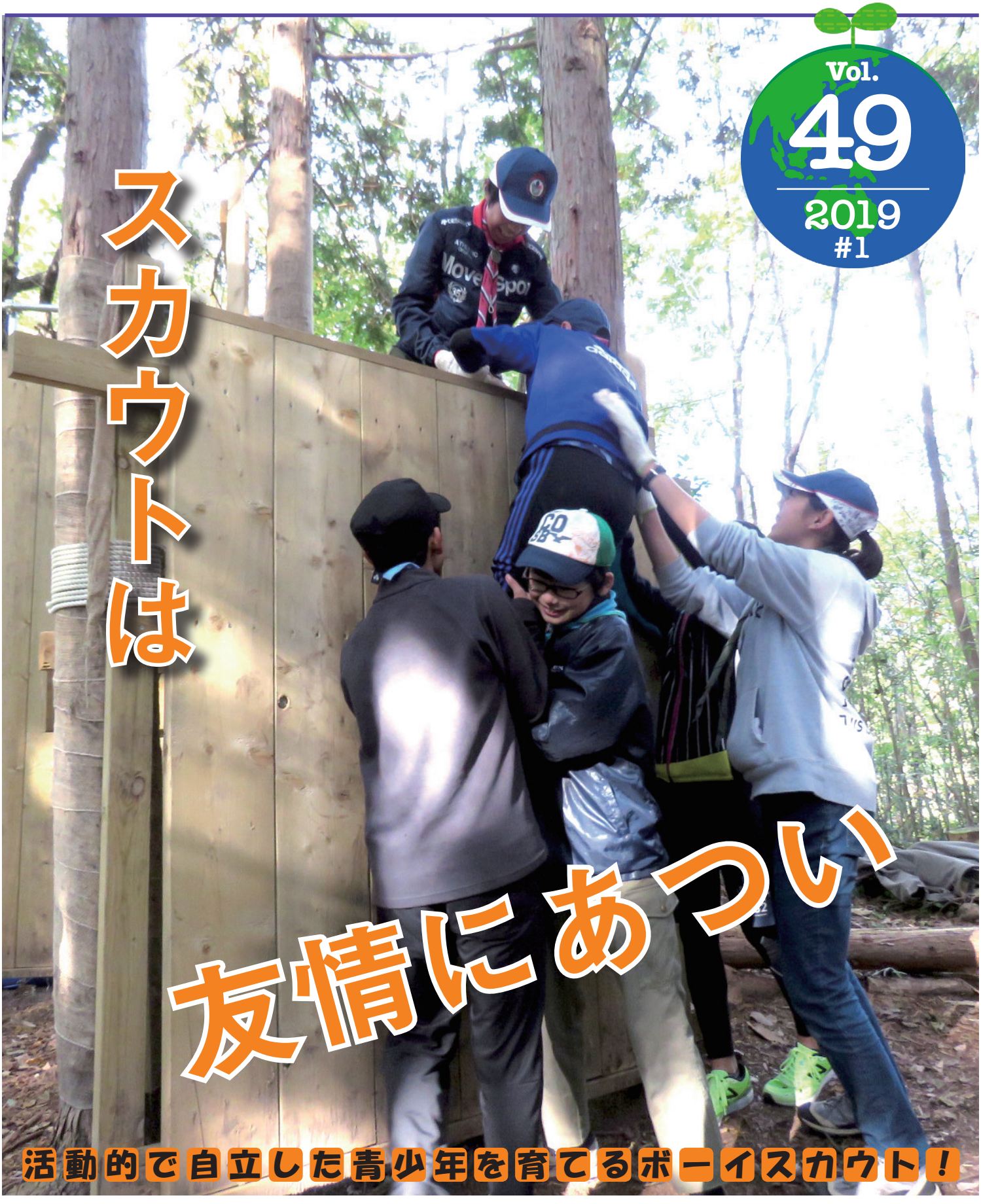
日本ボーイスカウト茨城県連盟広報誌

SCOUTING 茨城

Vol. 49
2019 #1



スカウトは

友情にあつい

活動的で自立した青少年を育てるボーイスカウト！

◉ 橋本千代寿 長老 逝く

日本ボーイスカウト茨城県連盟
理事長　　八木　雄二



平成 28 年 8 月 13 日　第 18 回茨城県キャンポリー閉会式にて

橋本千代寿長老が亡くなりました。

数え 99 歳、白寿を迎えられる年でした。大変残念です。長老は、日頃から「俺は百歳まで生きるぞ！」とおっしゃられていたことが今でも耳に残っています。年次総会でのあの独特な言い回しで私たちにお話いただき、そして、ご指導いただいたことがつい昨日のように思い出されます。

長老は、佐野珖治初代理事長の言葉に感銘を受け、県連盟創立前の昭和 24 年、土浦第一隊の隊付として、ボーイスカウト活動に足を踏み入れました。翌、昭和 25 年には土浦第二隊の隊長に就任し、土浦地区でスカウトの指導に携わりました。昭和 36 年には、石岡地区にボーイスカウト発団の機運が持ち上がり、石岡第一団の発団に尽力し、少年隊（BS 隊）、年長隊（VS 隊）の隊長を歴任しました。昭和 43 年からは、団委員として団の運営に携わり、石岡第一団の隆盛をもたらしました。

一方、県連盟におきましては、昭和 38 年に理事に就任した後、昭和 42 年には県コミッショナーに就任し、教育面から県連盟の強化を図られました。また、昭和 53 年からは、副理事長、理事長、副連盟長を歴任され、県連盟の運営面からも大いに力を発揮され、平成２４年には長老に就任されてからは大所高所から私たちを導いていただきました。

更に、長老は昭和 47 年に発足したボーイスカウト茨城県連盟維持財団の理事、常務理事、副理事長を歴任し、財政面からも県連盟を支援していただきました。

先日、ご自宅を訪問して、ご家族の方にお話をお伺いしましたが、長老の長い人生の大部分は、ボーイスカウト活動であったと話されておりました。また、送り出すときにはボーイスカウトの制服を着せたともお話しされておりました。

県連盟の創立から現在まで、生き字引的な存在で在り続けられた長老を失ったことはたいへん残念なことであります。

ここに、心よりのご冥福をお祈りすると共に、永年のボーイスカウト活動に対する感謝の心を伝えたいと考えます。

長老、安らかにお眠りください。

ボーイスカウト流 こどもの育て方



「スカウティングはゲームである」

これは、ボーイスカウトの創始者であるベーデン - パウエル卿の言葉で、これがスカウティングの本質を言い表しています。それほどまでに「スカウティング」と「ゲーム」は切っても切れない関係にあるのです。

スカウト達にとって、ボーイスカウトの活動は、楽しい時間なのです。では、いったい「何」が彼らにとっては楽しいのでしょうか。それはゲームです。

チーム同士で競い合うという、いわば彼らの本能や年代に応じた特性を活用し、社会の「こんな人間に育ってほしい」という願いを表した「活動のねらい」に沿って、具体的な活動プログラムに組み上げたもの、それがスカウティング・ゲームなのです。

そうスカウティング・ゲームには、子供の本能的に求めるものが、その根底に流れているから「楽しい」のです。彼らには、そこに教育的要素が含まれていようがいまいが問題ではありません。求めるのは仲間と共に夢中になれる楽しさであり、また、仲間との競い合いなのです。ですので、スカウトの心に響かないものではスカウティング・ゲームとしては成り立ちません。

スカウティング・ゲームは、基本的にチーム（班）を単位としたゲームです。１人でなく班の仲間と協力することでチームとなり、初めて同じ土俵で他の班と競い合えるのです。スカウト達は、ゲームに勝ちたいために、気のあった仲間を集めて班を作ります。班のメンバーが自分達の眼鏡に適った人を探し出し、また、候補者の中から選びます。そうすることで、「自分たちの班」という愛着や誇りが生まれてきます。

さて、スカウトたちは、「他の班に負けたくない、競い合って勝ちたい」ために、勝つための準備、すなわちルールを知り、役割分担をして日頃から準備をしていきます。そう「そなえよつねに」のスカウトのモットーです。

スカウトの隊集会は、その「ゲーム」の本番となります。そして、そこで勝つための作戦を練り、準備や練習をするのが「班集会」なのです。

このように彼らの本能・成長段階での特性を活用したのが「班制度（班制教育）」と呼ばれる小グループを活用した教育システムなのです。

このスカウティングの「ゲーム」は、スカウトからすると楽しく興味あるゲームですが、大人から見ると、単なるゲームとは違います。そこには求める効果（目的）があり、組み立て（ステップと目標）があり、それを活かす方法（ルール）があるのです。このようにスカウティング・ゲームには、成長に必要な実にいろいろな要素がちりばめられており、それを効果的に彼らが取り込み（実施し）、気づきを得ながら成長につながるようプログラミングされています。

スカウトたちは、教えてもらって気づくのではありません、体験（ゲームを）することで自ら気づいていくのです。自ら積極的に関わって気づくことができわけですから、「活動のねらい」がすんなりと受け入れられ、それが身に付いていくのです。

班に貢献するために進んで自分を磨くことは学校や学習塾のような「外からの教育（外発的動機付け）」とは対照的な「内からの教育（内発的動機付け）」で行われます。これは、良いものを伸ばし、必要なものを自ら求めるという、積極的に自ら潜在するものを成長をさせようというものです。この「内からの教育」の道しるべとなるのがボーイスカウトのもう１つの大きな教育システムである「進歩制度」です。これを外からの教育で行ってしまうと、成績だけが重視された序列が出現し、努力から自信へと繋がるはずの取り組みが、スピードと結果だけが重視されてしまいます。成長プロセスは無視され、努力も自信も段取りも配慮もなおざりにされ、記憶力だけの勝利となってしまいます（ちょっと大げさですが(笑)）。そうです！ 単に成績という名の「結果」のみが評価されてしまうのです。

しかし、本当の教育の真髄は、そのプロセスにあります。そのプロセスを知ってやってみること（体験）によって、物事の道理を知ること（観察と推理、分析と整理）によって、役立つ知識・手技（知恵）となるところにあります。

このように、ボーイスカウトの教育は、班という異年齢の信頼のおける仲間とともに、自分の内側からの求めによる多種多様なプログラムを実践・体験し、班に対する責任や貢献というところから社会性を身に付け、自分自身を自ら伸ばしていく教育なのです。

●思いやりの心を育む教育（1）



思いやりの心を育む教育とは

「子どもたちには思いやりの心を持った人になってほしい！」

多くの保護者がわが子にそう願っているのと思います。

- 思いやりとは、優しさであって、
- 思いやりとは、他人の立場になって考える心であって、
- 思いやりとは、他人を大事にする心です。
- 思いやりの心は、人が共存していく上でとても大切なことです。

では、スカウト活動において思いやりの心はどのようにして培われていくのでしょうか？

● 共感から得る思いやりの心

思いやりの心を育てる一番大事なことは共感です。スカウトと気持ちを共感することが指導者への大きな信頼につながります。

例えば、やんちゃなカブスカウトが、周りの友達を傷つける行為や、何かしら悪いことをしたときに、指導者が頭ごなしに叱るとどうなるでしょうか？

きっとそのスカウトは、自分の気持ちを分かってもらえず、否定されただけと捉えて、心を閉ざしてしまうことになるかもしれません。

粗野な態度にもどういう経緯でそうなったのかを紐解いて聞いていくと、そこにはいろんな感情があるのです。その細かい感情に共感しながら、「〜されたからこうなったんだね。」「〜だからこう思ってやったのね。」と寄り添い、その時の気持ちを汲み取ってから、こういうところが間違っているんだよと教え知らせてあげましょう。

子どもは気持ちを共感してくれたことで、自分の行いを反省し、いけなかったことにも冷静に聞き入れようとします。

気持ちを共感してもらう事は自分を理解してくれているという認識でもあるのです。

● 大人が人や物を大事にする姿勢から思いやりの心を見せる

スカウトは指導者の行動を一部始終よく見ています。

例えば扉を足で閉めたり、物をポイッと投げたり、乱雑に使っていたり・・・と。同じことをして注意されても「隊長もやってたから。」と言われるでしょう。

普段から家族間での会話のやり取り、そして、祖父母を大事にされている家族なら、子どもも親や年配の方々を大事にするのです。

また、スカウトは人だけでなく、動物、食べ物、草花、すべてのものに「感謝」の気持ちを持つことを伝えることも大切です。モノが溢れ、蛇口をひねれば水がいくらでも出る現代だからこそ、モノに対するありがたみを感じにくくなっています。「いただきます」「ごちそうさま」の意味を知り、食事に感謝しましょう。動物を大切にしましょう。ものを大切にすれば、他人の大切なものや、他人の気持ちも大切にするようになります。

● 思いやりとは相手の気持ちを一緒に考えること

人を思いやるには、「相手がどのような気持ちか」を考える力、共感できる力が必要です。しかし、ビーバースカウトやカブスカウトにとっては、まだまだ自分以外の他人の気持ちは簡単に理解できるものではないため、活動を通じて指導者や保護者が少しずつ教えてあげることが大切です。

まずは活動の中で、自分の気持ちを客観視できるような声かけをしましょう。「あのときはどんな気持ちだった？」「どうして譲ってあげられなかったのかな？」など、そう振り返りです。

そして、他者の気持ちを想像させましょう。「あの子はどんな気持ちだったと思う？」「こんなことを言われてあの子はどう思ったかな？」など、こうしたコミュニケーションが、相手の気持ちを感じとる練習になります。

● 思いやりの心は深い愛情から培われる

思いやりの心を育てるというのは、子どもの気持ちを理解し、共感することで信頼ができ、自分のことを知ってくれているという愛情を感じます。愛されているという認識は、自分も相手のことを大事にしようとする気持ちにつながっていくのです。思いやりの心は、仲間同士の関わり方、つまり大きな愛情といえます。

たくさんのスカウト達と活動をしている指導者の皆さんはどれぐらいスカウト達の気持ちを把握しているのか、これはとても重要なことです。

たくさんのアンテナを拡げてスカウト達たちを成長させてください。

森での遊びから環境を考える

しぜんとあそぼデイキャンプ 2018
in 高萩スカウトフィールド



高萩市にある日本連盟の高萩スカウトフィールドでは、森林の中で体感する環境教育プログラムを提供し、多くのこどもたちが参加しています。

植物や野生動物が生きる森の中での、更なる自然体験活動を通じて、青少年の「生きる力」「社会を生き抜く力」を養うことの一助となるように、日本連盟と、茨城県、高萩市、茨城県連盟が協働して、いばらき教育月間に地元高萩市内の小学生を招いた自然体験教室「しぜんとあそぼデイキャンプ 2018」を実施しました。

4 年目となる今回は、高萩スカウトフィールドをリスや小鳥の集まるより豊かな森に育てていこうと、地元松岡小学校と秋山小学校の児童を招いて、どんぐりと桜の植樹にも取り組みました。

19 日に行った開会セレモニーには、高萩市から大部市長、茨城県教育庁の小沼参事ほか、市内各小学校の校長先生等多くの来賓にお越しいただき、植樹のためのスコップ入れの儀などを行いました。

3 日間、高萩市の小学 4 年生と 6 年生が授業の一環として参加し、10 人前後の班に分かれてネイチャートレイル、火起こし・テント張り体験、どんぐりと桜の植樹を体験しました。

移植ごて（片手で持つ小型シャベル）でやさしく植える小さなどんぐりの苗は、明治神宮の森を守り育てている NPO 法人響（ひびき）から提供いただいたもので、響の佐藤理事長ほかスタッフの方々が子どもたちへの指導に来てくださいました。

また、公益財団法人日本花の会からいただいた大人の背丈ほどある桜の苗は、大きな穴にスコップで大量の土を入れながら植える汗かき作業となりました。子どもたちは隣の班と競い合いながら植樹を楽しんでいました。

さまざまな自然体験活動に加えて、どんぐりや桜の苗を植えることで、参加した地元の子どもたちに、この「大和の森」に愛着をもってもらう絶好の機会となりました。なお、今回植えた桜は順調に育てば 5 年ほどで花が咲くということです。

運営の中心となって子どもたちにプログラムを提供してくれたのは、全国から有志で集まったローバースカウトです。一緒にあそびながらいろいろ教えてくれるお兄さんお姉さんとして、子どもたちから頼りにされていました。

実施した活動は下記のとおりです。今年も、参加した高萩市内の小学生たちのたくさんの笑顔と出会うことができました。

- **植樹体験**：どんぐりや桜の苗木をフィールド内に植える植樹体験を行いました。生きる森を育む体験を通した、いのちの大切さを学び、次の 100 年につなぐ森づくりに貢献しました。
- **ネイチャートレイル**：フィールド内に自生する植物や樹木の成長や状態を観察するプログラムを実施しました。直接、見て・聞いて・触ることにより、自然の不思議や新たな発見を通した学びがありました。
- **火起こし体験**：マッチを使って、一人ひとりが自分のチカラで火起こしを行い、その火を使ったおやつ作りに挑戦しました。

その他、キャンプに必要なテント張りを行い、デイキャンプ気分を味わいました。

また、今回の植栽活動のために、茨城県連盟では各団に呼び掛けて、野営場の整備や植樹用の穴掘り、腐葉土の運搬、看板の作成、石の除去などの植樹のための諸準備を担当しました。

【事業概要】

○主催：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
○協力：茨城県・茨城県教育委員会・高萩市・高萩市教育委員会、ボーイスカウト茨城県連盟、公益財団法人日本花の会（桜苗木の提供）、ＮＰＯ法人響（どんぐり苗木の提供）
○助成：国土緑化推進機構「緑の募金」
○開催日：平成 30 年 11 月 19 日（月）、20 日（火）、22 日（木）の平日に授業の一環として実施
○参加者：松岡小学校 4 年生 66 人、同小学校 6 年生 66 人、秋山小学校 4 年生 51 人　計 183 人
○茨城県連盟奉仕者（11/16-17）：
熊田（北茨城 1）、秋山（日立 6）、助川（日立 5）、磯貝（日立 8）
鈴木（古河 1）、高橋（稲敷 1）
杉浦 県連盟副コミッショナー
若林 県連盟コミッショナー
高橋 副理事長、中島 副理事長
○茨城県連盟出席者（11/19）：
八木 理事長、八城 事務局長
中島 副理事長

01
グリーンバーのつどい
（ボーイ部門の班長・次長のつどい）

11月3日、4日にGBの集いに参加しました。今回のGBの集いは、前回よりも参加者が増え、アドベンチャートレイルなど、体験できるプログラムも増えたと思います。その中で、講習会では班とは何か、グリーンバーとは何かを考えながら学ぶことができました。そして班ごとにハイキングなどいろいろなチャレンジをしていきました。このチャレンジを通じてチームワークが大きな力になることがわかりました。そして、これらのチャレンジだけでなくすべての活動でチームワークが大事だということを学びました。なので、まずは班員どうし仲良くなることが大切だと思い、隊に帰ったらそのことをわかりやすくきちんと話していこうと思いました。



最後のプログラムでは、何でも相談室を開いていただきました。他の隊の人の悩みに対するアドバイス、自分の悩みに対するアドバイスも合わせて、今後の活動に活かしていきたいと思います。

今回の集いで体験したプログラムを通じて前回よりも更に多くのことを学ぶことができました。これからの活動に活かしていきます。（写真下）

02
県内のベンチャースカウトが交流キャンプを実施



ベンチャー交流会キャンプはとても新鮮なものでした。ベンチャースカウトだけの活動では、自発的な活動がメインになるため自分達の判断や意見が大切になります。進行なども自分達で行うためリーダー性も必要だということが改めてわかりました。

2日目のハイキングでは読図や歩測など苦手な分野のものが多くありました。

特に計測の場合、どれだけ簡単に正確に測れるかが大切ですが、電柱の柱では誤差2メートル、橋ではかなりの誤差がでてしまった。一人一人がもう1度歩測の基準を測り直すべきだという課題を見つけることができました。柱を測るとき、高さを測りたいときどうすればいいか考えました。

今回の交流会を通して県ベンチャーのこれからの活動が大まかに決まり、今まで以上の経験にしたいです。そのために一人一人が考えを持って最終的には1つの方向に進むことができることを目標とします。



03
ボーイスカウトが取り組む更なる「セーフ・フロム・ハーム」

「セーフ・フロム・ハーム」

この言葉の意味は、「Safe」：安全な・危険のない・心配のない・大丈夫・信頼できる・信頼できること、「Harm」：（精神的・肉体的・物質的な）害・傷害・危害のことで、「Safe from Harm」とは、害（傷危害）を受けることのない安全・安心なという意味です。つまり、「様々な危害から常に安全な状態でいる」ことです。最も安全で安心できる環境を提供することなのです。

スカウト運動の教育においても、その安全な環境を高く維持することで、社会からの信頼を得て保護者の方々にも安心して子どもたちを託していただく環境を作っています。



「ハーム」の発生する関係としては、ボーイスカウトにおいては「スカウトとスカウト」「スカウトと指導者」「指導者と指導者」「保護者と指導者」が考えられます。このいずれかの関係において「ハーム」が発生しないよう、昨年平成29年度から、組織的に全ての成人加盟員に対して研修受講を求めています。

そこでは、危害とは何かを具体的に学び、危害を受けない方法を学び、危害を発見した時の対処を学び、危害を防ぐための行動基準を学び、危害と疑われないための行動を学びぶと同時に心に刻みます。

この「セーフ・フロム・ハーム」の考え方や在り方は、「ちかい」と「おきて」を名誉にかけて誓った指導者にとって、ごく当たり前のことですが、改めて、それを深く認識することで、すべてのスカウト関係者が、安全で安心できる活動の構築を目指すものです。

指導者は「セーフ・フロム・ハーム」の考え方を理解し活動を行い、スカウトに「思いやりの心」を育む教育を提供することで、社会からのより一層の信頼を得るべく取り組んでいます。

04
「BS アイビー・グランプリ」

“IB-GP” 1地区大会、5地区大会

９月 24 日の第４地区大会を皮切りに、10 月には第１地区で、11 月には第５地区で IB-GP（アイビー･グランプリ）が開催されました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

10 月 21 日開催の第１地区スカウトフェスティバルのプログラムの一つとしてIBグランプリ第１地区大会が盛大に開催されました。

第１地区の5個団が参加し、参加車両51台でBVSグループ、ＣSグループ、BS 含む一般グループの3つに分けて競技を実施しました。

大会はグループごとのトーナメント方式で実施しました。DJ担当の北茨城1団の熊田リーダーの英語と日本語の紹介&実況中継で盛り上がりました。F1レースのBGMが流れる中、スカウトも興奮して大盛況の大会となりました。各グループの上位3名を表彰しました。さらに、デザイン賞も設定、表彰してスカウトたちの力作･レースカーをみんなでほめたたえ合いました。

大会終了後、フリー対戦の時間を設けたことが好評でした。対戦できなかった相手や、表彰された上位のスカウトと対戦したり、BVS対CS、BVS対BS、親子対戦なども実現したりして楽しい１日となりました。

多くのスカウトたちが、次回の開催･対戦を夢見て帰路に着いて行きました。

●大会スタッフとして、コースの組み立てとスタート係を主に担当しました。初めにコースですが各部品には、組み立てやすく番号と印が付けてあり初心者でも要領がわかれば的確に組み立てが出来るようになっていました。様々個所に工夫と苦労の跡が見られ素人から



ら見ても完成度の高いコースだったと思います。

そして、GP 本戦では、この大会のために選曲されたＢGM が流れる中、大会を盛り上げるアナウンスの合図で３台の車が一斉にスタートを切る様相は、上から真直で見ると興奮の域に達していました。スタート前に車のタイヤの具合を確認したり脱輪が懸念される車は真ん中のレーンにするなど思考することも多く１時間以上に及ぶ熱戦に緊張の途切れる間もなく周りの雰囲気を含め終始歓喜の声で埋まっていました。次の開催に団としての意欲を燃やしてます。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

第５地区では、平成30年11月18日に土浦市青少年の家でBグランプリ第５地区大会実施しました。

平成29年度の県カブ･ビーバーラリーが悪天候のため中止になったことから、地区内のカブ隊、ビーバー隊リーダーから、せっかく準備したプログラムが各団にあるのだから、地区としてカブ･ビーバーラリーをやりたい、とラウンドテーブルや地区協議会で要望が出されました。



それでは、ということで平成３０年の地区事業に入れることにし、県連でIBグランプリなることをやる、とホームページにアップされたので、一緒に行おうと軽い考えで計画をスタートしました。

実際のエントリー数はビーバー部門で32台、カブ部門で51台の出走となりました。

A部門のエントリーは5台でエキシビションとしてレース展開、午後のビーバー、カブ部門決勝のあと「やってみたいよね！」ということでビーバー部門、カブ部門、A部門優勝車両3台でどれが一番早いか、のテストマッチを行いました。

結果は・・・大人気なく？ A部門の勝ち、という結果になりました。

司会者の話術のおかげもあり大変盛り上がったIBグランプリが出来ました。

スタッフの皆さんの臨機応変の対応、活躍のおかげでなんとかやりきることができ、さすがはボーイスカウトのリーダー、と改めて思い直した一日でした。

スタッフの皆さん、引率リーダーの皆さん、ありがとうございました。





05

富士スカウト代表表敬

東宮御所、首相官邸・文部科学省 表敬訪問

ボーイスカウト日本連盟では、ボーイスカウトの最高進級章である「富士スカウト章」を受章したスカウトの努力をたたえ、表敬先のご理解のもとに、今後の一層の活躍を期待して、皇太子殿下（東宮御所）、首相官邸と文部科学省への代表表敬を行っています。

代表となれるスカウトは、富士章を受章したスカウトの中から選抜されます。

代表スカウトは集合の後、準備訓練を行い、翌日それぞれの表敬先を訪問しました。東宮御所では皇太子殿下より、首相官邸では安倍内閣総理大臣より、文部科学省ではスカウトOBでもある林文部科学大臣より、激励のお言葉を頂戴しました。

茨城県からは、水戸第２団ベンチャー隊の森田壽一くんが、平成30年４月５日に東宮御所に表敬訪問しました。（下写真：森田くんは向かって右端）



06

災害ボランティア活動

今年度の取り組み状況

（10月以降報告分）



● **平成30年７月豪雨 災害募金**（実施日順）

水戸第２団（7/15・水戸駅南口）

筑西第１団（7/22・筑西市内）

牛久第４団（7/29・牛久市内）

つくば第３団（12/9・つくば市内）

●**北海道胆振東部地震 災害募金**（実施日順）

牛久第４団（9/16・牛久市内）

つくば第３団（11/11・つくば市内）

土浦第５団（11/25・土浦市内）

以上、H30/10/31からH31/2/16までに県連事務局に報告があった活動です。

07

「食物アレルギーからスカウトを守ろう」

平成30年度第２回

指導者のつどいを実施

指導者のつどいが、平成31年２月４日に笠間市笠間公民館において、参加者28名、スタッフ９名で行われました。

午前中は、養護の先生に、毎日子供達に対応をしている、学校現場での食物アレルギー対応について身近なところからの話をしてもらいました。



その後、栄養教諭の指導でアレルゲンである「卵」の除去食のポテトサラダとかき玉汁を調理しました。

午後の振り返りの中で、エピペン（練習用）を実際触ってみたり、その対応についての質問なども多くありました。

参加者の中に、お子さんがエピペンを処方されている方がおり、アレルギーに対する生の声を聞くこともできました。

多くの指導者にとって、この食物アレルギーは知っている・対応しているつもりのものでした。しかし、あらためて専門の講師からお話しをうかがったことで、もっともっとしっかりと理解し、広く共有し、対応していかなくてはならないものであると心にきざまれていたようでした。

次回は、医療綿からの専門的な内容について聞きたいという声もあがりました。

たいへん有意義なつどいとなりました。



SCOUTING 茨城

SCOUTING 茨城　2019年　第１号　通算49号　　平成31年２月発行

発行　日本ボーイスカウト茨城県連盟事務局

〒310-0034　水戸市緑町 1-1-18　茨城県立青少年会館 3F

※ SCOUTING 茨城は、不定期で発行しています。

※ SCOUTING 茨城は、県連ホームページからもダウンロードできます。
http://www.scout-ib.net/

※ SCOUTING 茨城に掲載されている写真・文章等は著作権法等により保護されています。
著作権者に無断の複写・転載は堅くお断りいたします。